



①

大雨が降ったときに
身を守る行動“避難”に
ついて知ろう

②

わたしたちができること
～助けられる側から
助ける側へ～

年 組 名前

1

大雨が降ったときに 身を守る行動、“避難”について知ろう

1 避難

大雨のとき、安全な場所へ行くなどして、災害から身を守る行動を「避難」といいます。
また、災害が起こりそうなときに避難できる場所のことを「避難場所」といいます。

すいがい 水害

こんなときの避難は危険！

すでに水びたしになってしまったとき

すでに水びたしになってしまったところを通るのは、
どんなに浅くても大変危険です。



流れが速いところでは、
浅くても流されてしまう

キケン！



側溝(みぞ)やマンホールに
はまってしまう危険もある

キケン！

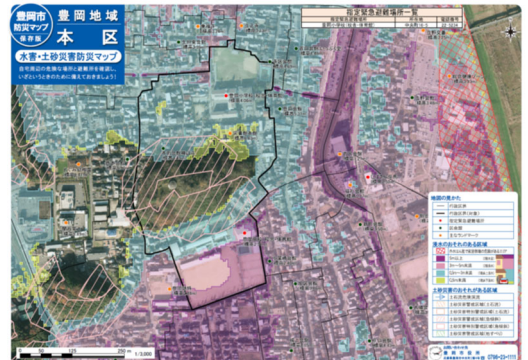
イラスト | 水害ハザードマップ作成の手引き(国土交通省)

ステップアップ

とよおか ぼうさい 豊岡市防災マップ

とよおか 豊岡市役所から、みなさんの家に「豊岡市 防災マップ」
が配られています。
「すいがい どしゃさいがいぼうさい
水害・土砂災害防災マップ」には、ちいき すいがい どしゃ
地域の水害や土砂
災害で危険なところや 避難場所、避難の情報などに
ついて書かれています。

図 | 豊岡市防災マップ, 平成28年11月更新



ステップアップ

ひなん 避難場所と避難所のちがい

ひなん 避難場所

さいがい 災害が起こりそうなときに 危険をさけ、命を守るために
一時的に避難する場所のことです。



ひなんじょ 避難所

さいがい 災害が起こりそうなときに避難できる場所であり、災害によって
家などを失くした人が一時的に生活できる場所のことです。
そのため公民館や、小中学校などの体育館などが避難所と
して指定されています。



やってみよう！

命を守るために、今できること

災害時に避難する避難場所を防災マップで確認したり、

家族で災害のときの避難について話し合ったりしておきましょう。

学習の ねらい

- 1 大雨による災害からの避難を知ろう
- 2 避難に役立つ情報を知ろう
- 3 そのときの状況で避難が変わることを知ろう

2 避難に役に立つ情報

大雨で水害が起こりそうなときは、**避難に役立ついろいろな情報**が発表されます。
周りの状況を見つつ、発表される情報も参考にしながら、避難の判断をしましょう。

避難情報

豊岡市役所から避難に関する情報が出されます。

危険度 **大**

警戒レベル3
高齢者等避難

お年寄り
など
避難に
時間がかかる人

避難を
始める

ほかの人たちも、危ないと
思ったら避難を始める

警戒レベル4
避難指示

危険な場所にいる人
全員が
避難を始める

必ず避難！
警戒レベル4までに

警戒レベル5
緊急安全確保

命の危険、
今すぐ安全な行動をとる

すぐに
避難できない場合
建物の
2階以上に行く

⚠ これらの情報が出ていなくても、身の危険を感じる場合は避難をしましょう

ポイント

① 災害が起こる前に安全な場所へ避難すること

災害で危ない状況になる前に、避難場所などの
安全な場所へ避難することが大切です。



② 状況にあった避難をすること

災害がすでに発生してしまい、
避難場所まで行くことのほうが危険な場合、
とにかく命を守るための行動をとりましょう

水害の場合

高いじょうぶな建物へ避難



やってみよう！

- 地上デジタル放送でリモコンの **d ボタン** を押して、
避難情報や川の水位情報などを確認してみましょう。
- 自分の家や家族の状況を考え、
どのタイミングで避難すれば良いか考えておきましょう



2

わたしたちができること

～助けられる側から助ける側へ～

1 自分の命は自分で守る「自助」、みんなで助け合う「共助」

災害時で大事なことは、**自分の命は自分で守る**ことです。これを「**自助**」と言います。一方で、近所で避難していない人に声をかけて避難にさそったり、足腰の悪いお年寄りの避難を手助けしたりするなど、地域の人たちと協力し、**助け合いながら災害を乗り越える**ことを「**共助**」と言います。

「自分の命は自分で守る」

自助



「みんなで助け合う」

共助



自分の地域から水害によるぎせい者を出さないために、みなさんもだれかのために力になればと思うかもしれません。しかし、いざ災害が起こりそうで自分が避難をしなければならなくなったとき、小学生のみなさんだけでは難しいこともあると思います。

こんなことがあるかも

となりのおじいちゃん、おばあちゃんが避難を始めたが、足腰が悪く避難に時間がかかりそう

自分ひとりだけお手伝いに行くのはちょっと無理かな…



こんなことがあるかも

近所で避難せず家にいる人がいる

あんまり知っている人じゃないから声かけづらいな…



学習の ねらい

- 1 水害時の避難について確認しよう
- 2 災害時にはいろいろな状況があることを知ろう
- 3 自分たちにもできることがあることを知ろう

3 自分たちにもできることがある



ひごろ ちいき ぼうさい
日頃から地域の活動や防災訓練に参加してみよう

▼豊岡市立豊岡北中学校

ひごろ ちいき ちいき
日頃から、地域の活動に参加し、地域の人たちを知り、地域の人たちと一緒にできることを考えてみましょう。また、避難訓練や防災訓練に参加し、災害時の避難を体験しつつ、日頃からやっておくべきことや備えておくべきことなどを考えてみましょう。



写真：豊岡市

ポイント

① 率先して行動する

周りの状況や情報などから、災害で危ない状況になると思ったときには、自分から家族に声をかけ、率先して避難するよう心がけましょう。自分たちが避難する様子を見て、それをきっかけに避難する人もたくさん出てくると思います。



② 自分たちにもできることがある

災害が発生したときには、みんなで支え合い、おたがいに思いやり、協力し合うことが大事になります。そのようななか、自分たちにもできることがきっとあると思います。どんな小さなことでもかまいません。その気持ちが、みんなの心の支えになります。

▼豊岡市立三江小学校



写真：豊岡市

やってみよう！

- ▶ 災害が発生したときには、学校の体育館などが避難場所になり、避難しに来た多くの人たちが集まります。そのような中で自分たちにはどんなことができそうか、考えてみましょう。



避難所にはどのような人が集まるでしょうか？



写真:豊岡市

災害が発生したときには、避難所には避難してきた多くの人たちが集まります。

では、避難所には、どのような人が集まるか考えてみましょう。

避難所での生活はふだんの生活とは大きくちがいます。困ることやがまんすることも多くさん出てきます。**人によって必要とすることや困ることもちがいます。**そのため、いろいろな人のことを考えて生活する必要があります。

そんな生活の中では、大人だから、子どもだから、男性だから、女性だから…ではなく、**それぞれができることで協力し合うことが大切**です。

ふだんから地域の活動に参加することで、地域にどんな人がいるか、避難所でだれが何に困っているか気づくことができるかもしれません。

覚えておきましょう 大切なこと



- ☺ 他の方のことを考えることができる気配りの心を持つこと
- ☺ みんなが気持ちよく過ごせるよう、助け合いの気持ちを持つこと
- ☺ ふだんから地域の活動に参加すること

地域の防災訓練

豊岡市では、各地域で様々な防災訓練が行われています。地域の防災活動を知ることができたり、地域の人々に関わることができる良い機会です。

家族でいっしょに参加してみましょう。

実際に避難行動をとってみる避難訓練、非常食を作ってみるたき出し訓練、非常用のテントを組み立ててみたりなどいろいろな取り組みを行っています。



積極的に
参加してみましょう

写真:豊岡市

気づいたことや考えたことなど
メモしておきましょう！



A large rectangular area with a red border, containing ten horizontal dashed red lines for writing.



あかぎ まさお
赤木正雄という人を知っていますか？

明治20年（1887年）に豊岡市の引野で生まれ東京大学を卒業してから、内務省（いまの国土交通省）で働きました。

「川を安全にするためには、山をなおさなくてはならない」と、全国で山と川の工事を指導しました。

その工事では、山がくずれないように木を植えたり、土砂が雨水といっしょに流れ出ないようにする技術を使いました。このように、山がくずれたりしないようにする対策を「砂防」と言います。この砂防工事は全国で役に立ち、世界でも有名になりました。「砂防の神様」と尊敬されています。

「砂防」という日本語は、世界中で日本語の言い方のまま「SABO」と使われています。

あかぎ まさお どうぞう
赤木正雄の銅像（豊岡市 塩津町）

でかけるときのいつものスタイル
（リュックサックに登山ぐつのがた）です。

あかぎ まさお てんじかん
行ってみよう！ 「赤木正雄展示館」

豊岡市引野には、赤木正雄が生まれた家が今でも残っており、国の文化財にも選ばれています。明治3年（1870年）につくられたときのままです。水害にそなえて、地面から2m高い石がきの上に家が建てられています。

近所の人たちの避難場所にもなっていたようです。

今は、家の一部が「赤木正雄展示館」になっており、映像や資料をみることができます。

おきのただお

沖野忠雄という人を知っていますか？

かえい けいおう けいけん
嘉永7年(1854年)に豊岡市大磯で生まれ、元治元年(1864年)と慶応2年(1866年)と明治3年(1870年)の3回の大水害を経験しました。学校の成績がとても良かったので、豊岡藩のお金で東京大学に進学し、その後、国のお金でフランスにわたって土木工学を学びました。日本に帰ってから内務省(いまの国土交通省)で働きました。**新しい技術で日本国中のあばれ川や港づくりの大工事を指導**しました。とくに大阪港や淀川の工事は有名です。「**治水の神様**」とよばれ、尊敬されています。

まるやま かいしゅう たいしよく
円山川第一期改修工事のときは退職していましたが、重要なアドバイスをしました。



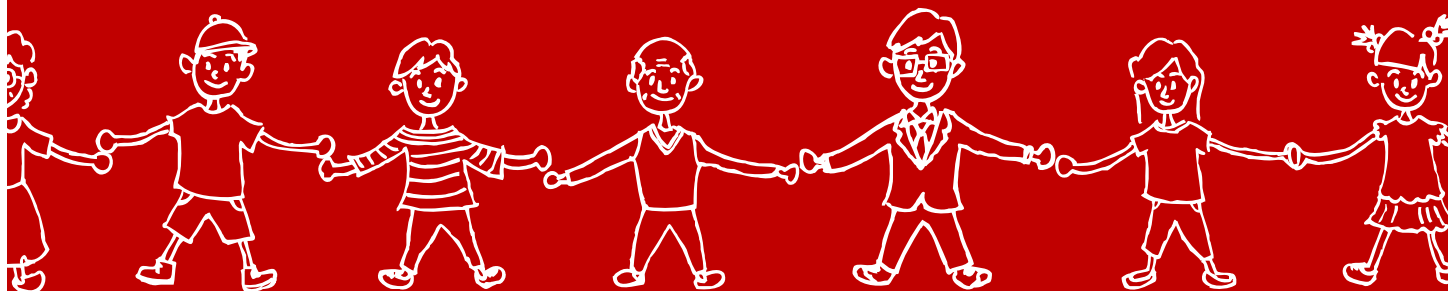
いずし おきのただお せきひ
行ってみよう! 「出石神社の沖野忠雄の石碑」



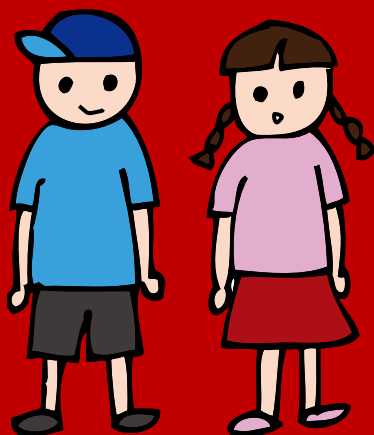
いずし けいだい ちすい
出石神社の境内に、「治水の神様」
おきのただお せきひ せきひ
沖野忠雄の石碑があります。石碑は高さ5mもあります。石碑のうらには「但馬をゆたかな地方にしたアメノヒボコをまつているこの出石神社に、沖野忠雄博士の碑をたてて、博士のすばらしい仕事と人格をきねんする」という意味の文章がきざまれています。



いずし
出石神社の神様アメノヒボコにはどろ水の海だった豊岡盆地から水をぬいたという伝説があります。



大事なことを書いておきましょう



ひなん
家族と決めた避難するところ

防災授業副読本